第３回宇都宮市上下水道事業懇話会　議事録

■　日　時

平成 30 年 2 月 8 日（木）　午後 2 時～

■　会　場

宇都宮市上下水道局　5 階大会議室

■　出席者

・　委　員：太田正委員，岡田榮委員，郷間いし委員，
坂本英典委員，櫻井誠委員，三宅徹治委員，
宮嶋雅子委員，室恵子委員，山岡暁委員（50 音順）

・　局　側：上下水道事業管理者，経営担当次長，技術担当次長，経営企画課長，
経営担当主幹，企業総務課長，サービスセンター所長，
工事受付センター所長，水道管理課長補佐，水道建設課長，
下水道管理課長，下水道建設課長，生活排水課長，
技術監理室長，事務局職員

■　傍聴者数

0　名

■　会議経過

1　開　会

2　懇　話

「第２次宇都宮市上下水道基本計画」（素案）について

（１）委員からの御意見およびパブリックコメントについて

（２）素案について

事務局より，資料に基づき説明。

Ｉ　委　員：　計画素案２２ページ「計画の柱１　安全で安心な水道水の供給」の施策指標に「おいしい水の要件に適合」とあるが，「適合」しているかどうかはどこで検査しているのか伺いたい。

事　務　局：　市内１１か所にある地区市民センターで採水して検査をしている。

座　　長：　水道水には基準値と管理目標値があり，管理目標値は基準値よりも厳しい数値であると認識しているが，管理目標値とおいしい水の要件との関係について伺いたい。

事 務 局：　水道水の水質基準・管理目標値と，おいしい水の要件には明確な関連はない。７つあるおいしい水の要件のうち，炭酸ガスや臭気・塩素の残留濃度の要件値については，管理目標値よりも厳しい数値が設定されている。

Ｅ 委 員：　今回，７件のパブリックコメントが寄せられているが，他のパブリックコメントの実施状況と比べて多いのか，少ないのか伺いたい。

事 務 局：　今年度，本市では第６次宇都宮市総合計画と合わせ，各分野で様々な計画を策定しているが同程度の件数となっている。

Ｂ 委 員：　計画素案４３ページに「基本施策７－２　安定した組織基盤の確保」とあるが，職員の人材育成や，専門的な知識を持つ職員の退職，再任用職員を活用した人材確保について今後の見通しを伺いたい。

事 務 局：　技術職員の再雇用を進めており，職員を対象とした研修も充実させている。前回の懇話会でも御説明したとおり，職員１名あたりで計算すると上下水道局では本庁よりも多くの研修を実施しており，技術の継承を行い，将来にわたって人材の確保ができるよう取り組んでいる。

座　　長：　重要な論点である。「基本施策７－２」についても詳しい説明をお願いしたい。

事 務 局：　人的資源の確保や人材育成の強化，技術継承の推進のため，これまでの課題を踏まえ，研修や資格取得支援の内容などを見直すほか，実地研修の導入やマニュアルの整備などの取り組みを実施し，技術継承の取り組みを強化していく。

　素案４４ページ「基本事業７－２－（２）　事業者との連携強化」について補足したい。現在，全国の上下水道事業体で同様の課題を抱えているが,行政だけで今後,多くの事業を展開していくことは困難であり，民間事業者との連携を強化していくことが必要であるため計画にも明記

している。

Ｈ 委 員：　素案概要版の４章４と７について指標が調整中となっているが，具体的にどのような状態なのか伺いたい。

事 務 局：　「４　災害に強い上下水道の確立」下水道部分の指標は，現在事業スケジュールの見直し等を行っており，完了次第，指標として設定したいと考えている。「７　健全な経営の推進」の指標は，パブリックコメントの中で企業債残高を設定していたが，今後の財政収支等の見通しを精査したうえで可能な限り正確な数値を設定したいと考えており，現在調整中である。

　将来にわたって健全な経営をしていくために，最適な企業債残高や借入額の検証を現在行っており，企業債残高を目標数値として設定していきたい。

Ｆ 委 員：　以前の資料からは，企業債残高について現状を維持していく方針と読み取れたが，これについて見直しをしているという理解でよいか。

事 務 局：　企業債残高は，長期的に見ると減少していく傾向にある。今後，残高を減少させ続けるのではなく，施設・管路等の適切な更新を実施する中で，一定額の借入を行っていきたいと考えている。

（３） 第２次宇都宮市上下水道基本計画の推進体制について（報告）

事務局より，資料に基づき説明。

座　　長：　事務局から説明のあったアセットマネジメント（以下，「ＡＭ」という。）システムは財政マネジメント，組織マネジメント，施設マネジメントが統合されたもので，３層構造になっており，理解するには施設単体を取り上げるよりも，まず全体像を把握することが重要と考える。施設マネジメントの中で更新・耐震化等の事業を行っていくが，財源や執行体制の観点も加えているということを示した図だと思う。

　ＡＭの説明について，従来の観点にリスク管理の視点を加えたものがＡＭということだが，コストに見合った成果を出していくことと併せて，大規模自然災害への対策や，人材育成，技術継承といった人的リスクを管理していく必要がある。先ほど説明のあった民間事業者との連携も，

人的リスクへの対応の一つであると言える。

１回の説明で理解するには難しいテーマと思うが事務局から補足で説明があればお願いしたい。

事 務 局： 予算の制約の中で工事を行うという考え方もあるが，事業単体ではなく，施設の耐用年数等，リスクを全体的に把握し，行うべき工事があれば企業債の借入等で財源を確保するといった次世代へ受け継いでいける仕組みづくりをし,強靭なライフラインを作っていきたいと考えている。

Ｆ 委 員： 最近は少なくなってきていると思うが，昔は道路工事で掘削した直後に水道工事でまた掘削するといった事例もあった。他部署と連携することでコストを下げるといった取組は行っているか。

事 務 局： 年に数回，道路，ガス，電気，上下水道事業者等で構成する占用者協議会という場で情報共有を行い，最適な時期に工事を行えるよう調整している。

併せて，以前は年度末に工事が集中する傾向があったが，早期発注等の取組を行い，年間を通して平準化した発注ができる体制が全市的に整ってきている。

Ｉ 委 員： ＡＭの理念については理解することができた。素案概要版には様々な指標があり,これはパフォーマンスを上げるための指標であると思うが,先ほどの説明にあったコストとリスクを踏まえて作成しているのか伺いたい。

事 務 局： 管路の耐震化で説明すると，まず重要な管路の範囲を決定し，投資コストの中でどこまで工事が可能か調整する。工事を行わなかった箇所は耐震化が遅れるので，下水道ＢＣＰでどれくらいの復旧時間まで許容できるかを計算し，リスクとして許容していくといった調整をしていく。

座 長： 指標には２つの種類があると思うが,事務局から説明をお願いしたい。

事 務 局： 指標には大きく分けて，事業の進捗等を示す「活動指標」と，活動の結果を示す「成果指標」の２種類があるが，現計画ではこれが混同して示されていた。今回の計画では成果指標を２次計画の指標として設定す

るのがふさわしいと考え，第４章では成果指標を設定している。

Ｆ 委 員： 素案４０ページの施策指標に「エネルギー消費量（原単位)」とあるが現状値の単位について分母となる部分を記載する必要があると考える。

併せて２５ページの施策指標「公共下水道接続率（水洗化率)」は従来まで整備率だった。接続率と整備率の意味の違いを説明いただきたい。

事 務 局： 素案４０ページについて，国では生産数量や延べ床面積などを基準としている。本市では具体的には局庁舎の延床面積，水再生センターの処理水量，浄水場の配水量を分母としている。

素案２５ページについて，従来の整備率は下水道の整備対象区域を分母として，下水道管が整備されている割合であり，水洗化率は下水道が整備され接続可能な世帯数を分母として，実際に下水道が使用されている割合を示している。

資料４ 上下水道事業５０年収支予測システムの活用について

事務局より，資料に基づき説明。

座 長： 設定するパラメータには具体的にどのようなものがあるか。

事 務 局： 企業債の借入額，設備の新設・更新費用等の事業費や職員の給与費等が設定可能である。

Ｈ 委 員： パラメータの入力は金額ベースなのか。耐用年数等，金額以外のパラメータ設定は可能か。

事 務 局： 委員の御指摘はストックマネジメントに関する部分であり，各事業課において，今年から始まったＡＭと併せストックマネジメントを運用している。耐用年数等のシミュレーションや優先順位付けを行った結果が金額ベースで本システムに入力されていくイメージである。整備計画を前倒しする等のシミュレーションにも，本システムであれば簡易に対応が可能であり，今後活用が期待されているところである。

座 長： ベースに決算上の統計数値が入力されていて，数値の調整もでき， 使

い勝手がよいシステムであるように感じた。上下水道事業を中長期的に持続可能にしていくため，５０年後の状態をわかりやすく数字で示している。

Ｅ 委 員： ＡＭシステムの全体像の施設マネジメント，財政マネジメントについてイメージできた。組織マネジメントの概略について説明いただきたい。

事 務 局： 現状，組織体制は上下水道局だけでなく本庁と合わせて人事を行っており，５年先程度までは組織体制について概算ではあるが見通しが立っている。経験のある職員を確保するため，水道だけでなく，下水道の経験も積ませるなど幅広い経験をさせる，また職員研修を積極的に行う等の取組も行っている。採用は全庁的に行ってはいるものの，なるべく上下水道局に職員を確保できるよう努めていきたい。

人口が減少する中，職員の採用は増やせない一方で，管路の老朽化等により業務量は増えている。現在ＡＭに基づき，直営で行わなければならない部分と，外部に委託できる部分に振り分ける作業を行っている。

座 長： 地方公務員数は減少しており，宇都宮市も例外ではない。基幹的業務はどのような事業分野にもあり人員の配置は必要であるため，人事異動や人員規模等の問題は市政全体の課題として慎重に検討いただきたい。その上で，民間事業者への責任ある委託の仕組みをどのように作るかといった体制づくりの面で，連携は必要であると考える。

Ｃ 委 員： 上下水道料金には使用した水の分だけでなく，施設の更新費用等も含まれているのか。

事 務 局： 料金には，施設の維持更新費用も含まれている。今後，リスクと料金のバランスを取り，皆さまから御意見をいただきながら料金設定について検討していきたい。

Ｃ 委 員： 宇都宮市は上下水道料金が高いと聞いている。事業体によって料金は異なるのか。

事 務 局： 地形や水源等地域の条件によって異なるので一概に比較して決められ

るものではない。

Ｄ 委 員： 料金について。素案４３ページに「料金制度の検証」とあるが具体的にどのような課題があるのか伺いたい。

事 務 局： 基本水量が水道と下水道で異なっているため，今後分かりやすい仕組みを作りたいと思う。支払方法についても御要望をいただいているのでシステムの更新とタイミングを合わせて検討していきたい。

Ｄ 委 員： 例えば電気料金ではライフスタイルに合わせ，様々なプランを選択することができるが，水道料金も同じようにできないか。また，素案にある数値は，従来の数値に対して今後どのようにしていくのかの積み上げで構成されている。宇都宮市の上下水道事業について，５０年後のあり方を見据え，大胆な考え方も議論していけると良いと思う。

事 務 局： 料金体系については，新しい提案ができるよう研究していきたい。今後はＮＣＣの構想に基づき,上下水道施設を更新しながら強靭にしていき，事故の際は直ちに修繕できる体制を作りたい。また，様々な供給方法を視野に入れて考えていきたい。

座　　長： 人が住んでいる場所に水の供給は不可欠であり，５０年，１００年といった超長期でまちのありかたを見据えた上で上下水道事業の将来像を描かなければならない。宇都宮市の場合，ＮＣＣを掲げており，立地適正化計画も策定されているので,これらと上下水道の整備計画も整合する必要がある。

事 務 局： 市全体で総合計画を策定しているところであるが，将来を見据えた議論をしている。上下水道も市を支えるライフラインとして同じ目標に向かって連携をはかりながら進めていきたい。

Ｇ 委 員: 借りているアパートの蛇口から鉄さびのようなものが出ることがあるが，問題はないか。

事 務 局： 送られてくる水は安全だが，建物の中にさびの出る給水管がある可能性がある。場所を伺えれば水質検査をすることもできる。

Ｆ 委 員：　基本計画策定にあたり，意見がどのように反映されているのかが分からない。素案と突き合わせると前向きに対応いただいたことが分かり感謝しているが，本来であれば懇話会で議論されてからパブリックコメントに出すべきと思う。

　また，水道は市民のほぼ１００％が接点を持つ重要なものであり，現代社会の課題である社会的接点として活用できないかと考えている。

事 務 局：　御指摘のとおりである。本来であればパブリックコメントの前に懇話会で御意見をいただきたかったが，各部局との調整に時間を要したため先にパブリックコメントを実施することとなった。今後，３月末の計画策定までに，これまでいただいた御意見を十分に反映した内容としていきたい。

　また，市民の皆さんから幅広く御意見をいただくことを主眼として宮の水サポーターという制度を始めた。時間はかかると思うが広報広聴活動に参加，参画，協働いただけるよう取り組んでいきたい。

座　　長：　宮の水サポーターについては，次回の懇話会で紹介いただきたい。

事 務 局：　了承

４　その他

事 務 局：　次回以降は来年度の開催となるが，日程が決定次第，御連絡させていただく。

５　閉　会